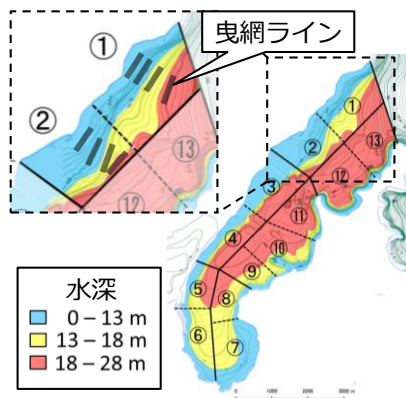


宮津湾ナマコ資源状況を調査

宮津湾のナマコ漁業者は、乱獲によって減少したナマコ資源の復活に向け、平成 24 年頃から漁獲量やサイズ規制（300 g 以下はリリース）などの自主的な資源管理に取り組んでいます。当センターでは、その効果等を把握するため、漁業者及び京都大学と共同で、漁期前後のナマコ資源状況を平成 29 年から毎年調査しています。

ナマコ漁解禁直前の 1 月 11 日に、宮津湾内の 50 か所で底びき網によってナマコを採集した結果、漁獲された個体数は以前と比べて大きな違いはありませんでしたが、平均体重は 2 年前より約 90 g 増加していることが分かりました。これは大型ナマコの割合が増えたことを現しており、関係者による資源管理の成果と考えられます。

今後は、宮津湾の取組みをモデルとして、府内の他海域でも適切な資源管理手法を普及させることで、府内の漁獲量の増加と安定化を目指します。



調査地点図（宮津湾を 13 海区に分割し、水深別に試験曳網を実施）



700 g(左)と 580 g(右)の大型ナマコ